

過去の事例に学ぼう



小学校4校、中学校4校の勤務経験の中で、大きな事故・ケガの事例を紹介します。ケガや事故は予防が大切です。参考にしてください。

ケース1

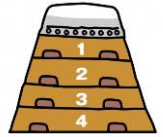
小学校1年生男子。少し体形はぽっちゃり。体育の跳び箱の練習中に、跳び箱に手をついたものの飛び越すことができず、跳び箱上で自分の手の上に全体重がかかり、左手の親指以外の4本を骨折しました。

保健室で指を見た瞬間、
4本とも骨折とわかるほど
腫れていました。



4本の指を包帯でまとめて固定し、冷やして整形外科へ。指の骨折でしたが、しばらく手首まで固定して三角巾で腕を更に固定していました。

小学校1年生で、跳び箱に不慣れであったことや、彼の運動能力や体重との関連もあつたケガでした。



ケース2

幸いなことに、落下した地点にその学校職員の自転車が一台だけ壁際に止めてあり、その自転車のサドルにぶつかりバウンドして地面に落ちました。意識もあり、痛みと驚きで泣いていましたが、すぐに救急車で病院へ移送し検査を受けたところ、頭部打撲はなく肋骨骨折と全身打撲の診断でした。2週間ほどで退院をして、元気に登校再開しました。

自転車の車輪は、ぐにやりとつぶれ、使用不可能になりましたが、自転車が命を救ってくれました。

窓の手すりには、絶対に腰かけないことはその後教訓となりました。

小学校4年生女子。4時間目の授業が終わりクラスは給食準備中。3階の教室の窓際のお道具箱入れから登り、手すりに腰を掛けていたが、そのままぐるりと後転するように窓の外に落下。

夏で、窓は開いていたのにカーテンが閉まっていたため、本人は窓が開いているとは思わず背中を窓にもたれかけたため落下した。

ケース3

中学3年生男子。放課後サッカー一部の練習中に、ボールを追いかけていて周りの状況が目に入らず、グラウンド脇の盛土側面のコンクリート壁に顔面から激突。

しばらく動くことができず、
他の部員数人で保健室へ運ぶ。

顔面の変形があり

衝突時の記憶があいまいだったため、救急車を要請し脳神経外科へ移送。

顔面骨折との診断で、しばらく入院し手術を受けた。



部活動に夢中になるあまり、周囲の状況が目に入らなくなっていました。夕方6時頃で暗くなりかけていたため、視界に入りにくかったようです。

普段から、活動場所の環境を把握しておくことも大切ですね。

その後、全快するまでには時間はかかりましたが、後遺症もなく元気に卒業しました。本人曰く「あんな痛い思いは二度とたくない。」

ケガをしてから、保護者連絡、救急隊がかけつけ見送るまで20分でした。

救急車を要請した際は、必ず誰かが誘導しなければなりません。サッカー一部の生徒と教職員の連携プレーで、素早く救急搬送ができた事例でした。

中学生になると、ある程度の運動能力、予測する力は備わってきますが、普段の生活を整えることも大切です。睡眠不足や、不規則な食事により集中力がなくなりケガや事故につながるケースも多くあります。日々の暮らしの積み重ねの大切さも、「救急の日」に考えてみましょう。感染症や熱中症予防だけでなく、生活をトータルで整えられることを目指しましょう。